

平成 30 年度

## 「ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム(GCL)」

### コース生募集要項

#### 1. 本プログラムの概要

情報通信技術(ICT)が世界中の人と事物を複雑に結び、急速に変動する未経験の社会経済システムが出現する中で、次々と発生する新たな問題や可能性を捉え、人々に価値あるソリューションを創造し実現する変革が強く求められている。

本プログラムでは、修士から博士後期課程までの一貫した教育課程により、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの先端 ICT を基軸とし、複数専門分野を統合して、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会的イノベーションを先導するトップリーダーとチームを育成する。

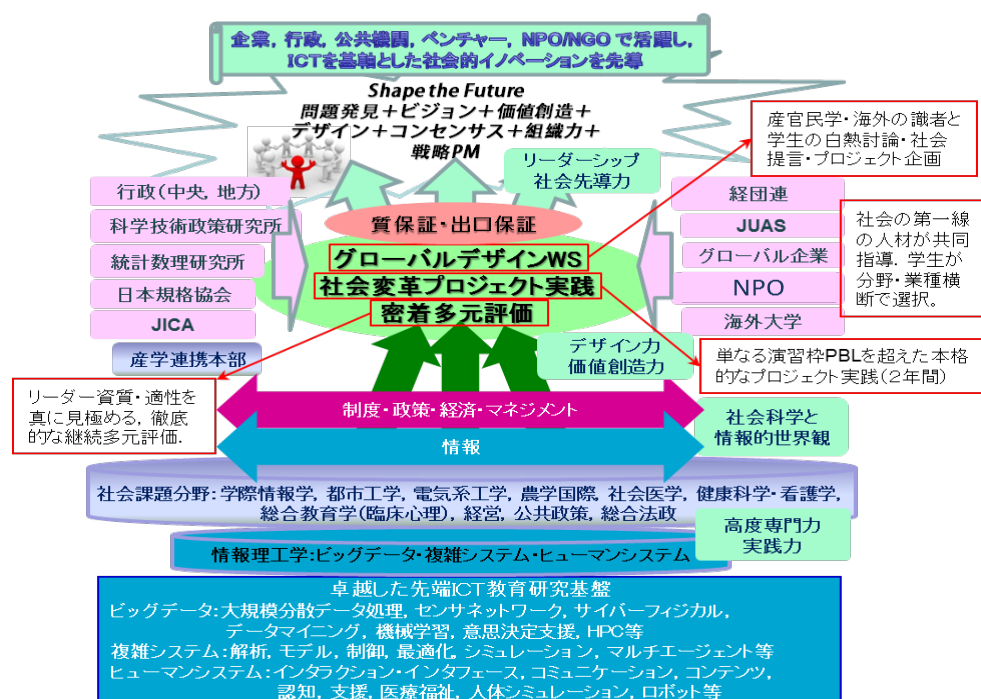


図. GCLプログラムの概念図

#### 2. 申請資格

本プログラムの参加できる学生は、以下をすべて満たす者とする。

- 以下に挙げる本学大学院修士課程に平成 29 年 9 月に入学した者、および、平成 30 年 4 月に入学する(した)者。

情報理工学系研究科 (コンピュータ科学専攻、数理情報学専攻、システム情報学専攻、電子情報学専攻、知能機械情報学専攻、創造情報学専攻)

学際情報学府 (学際情報学専攻)

工学系研究科（都市工学専攻、電気系工学専攻）  
 医学系研究科（社会医学専攻、健康科学・看護学専攻、公共健康医学専攻）  
 農学生命科学研究科（農学国際専攻）  
 教育学研究科（総合教育科学専攻臨床心理学コース）  
 経済学研究科（マネジメント専攻）  
 公共政策大学院  
 法学政治学研究科（綜合法政専攻）

- ・ 本プログラムの趣旨、履修要件等のルールを十分に理解する者。
- ・ 上のいずれかの専攻において博士後期課程進学を目指すもの。
- ・ 広い意味で、先端 ICT とその社会への応用に関心を持ち、積極的にそれらを学習する意欲のある者。

2 年次以後の進級者は、上に加えて：

- ・ 先端 ICT に基づいた社会的イノベーションにおけるリーダーとなることを志す者。
- ・ 博士の学位記に本プログラムを修了したことが付記されることを了解している者。

なお、他のリーディング大学院プログラムを重複して履修することはできないものとする。

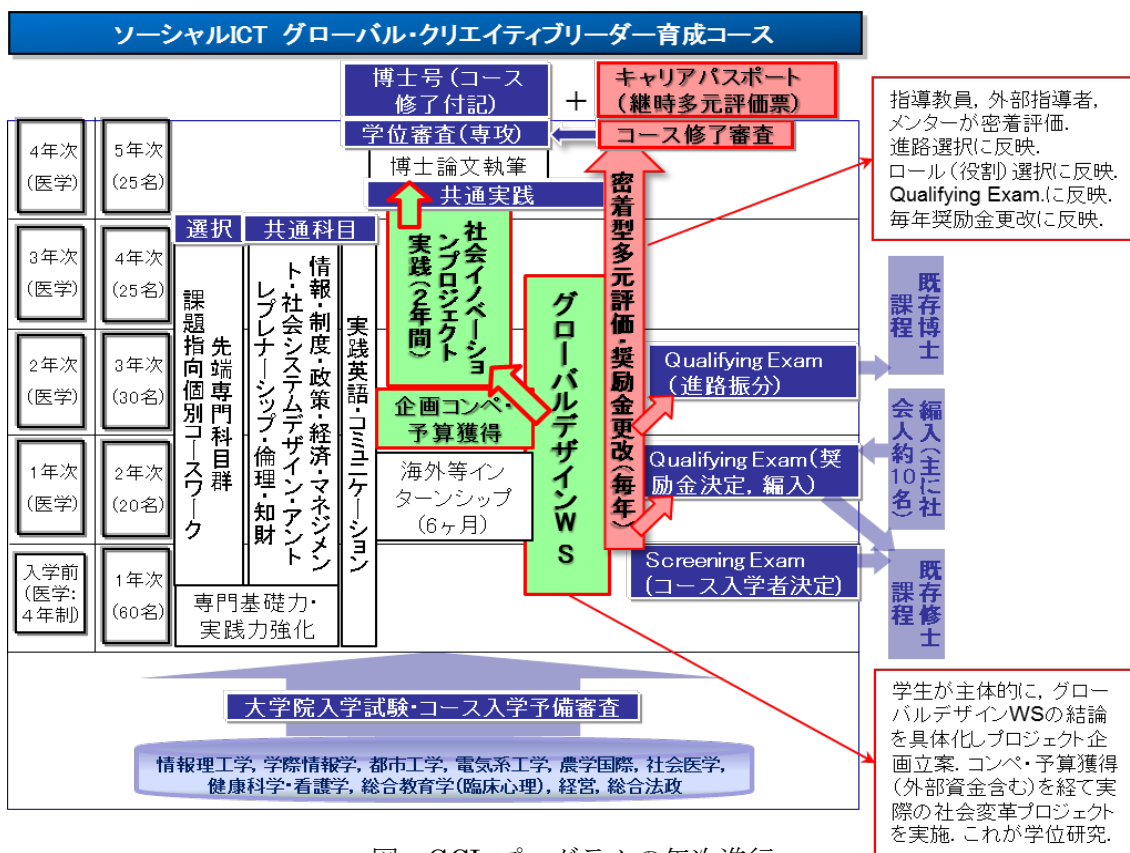


図. GCL プログラムの年次進行

### 3. 各年次の趣旨と募集人数（前ページ参照）

1年次（修士1年相当）：所属専攻の専門的知識・実践力を修得・強化しつつ、本コース独自の科目により社会イノベーションやソーシャル ICT についての基礎知識や視座を身に着け、問題意識を涵養する。また、実践英語・コミュニケーション演習やグローバルデザインワークショップ(GDWS)により、グローバルリーダーに向けた基礎力と社会の第一線の人々（海外含む）との討論・協働経験を得る。

1年次募集定員は60名（予定）で、希望者から選抜して受け入れる。1年次後半に、各自の適性と将来設計に応じて、2年次以後も本格的に本コースで博士学位修得を目指すか、既存の通常課程で修士修了あるいは博士進学を目指すか各自判断する。本コース2年次進級希望者から20名が選抜され進級する。これ以外の通常課程進学者は、上記の基礎的素養を携えて各専門分野を深め、社会で活躍していくことになる。

2年次（修士2年相当）：本コース独自のカリキュラムにより、グローバル・クリエイティブリーダーとしての博士学位取得を目指す。コース独自科目と各専攻科目に加え、海外・国内インターンシップ（場合によっては3年次実施）、社会イノベーションプロジェクト企画、ソーシャル ICT に関する研究・実践等を行い、所属専攻の修士学位を取得する。博士後期課程進学を前提として奨励金を全員（辞退者除く）に支給する。定員は20名（予定）。

3年次（博士1年相当）：上記科目に加え、各自が企画立案した社会イノベーションプロジェクトに取り組む。定員は30名（予定）で、2年次からの進級者に加え、主に社会人を対象として10名程度を選抜試験により編入する。以後5年次まで全員（辞退者除く）に奨励金を支給する。

4年次：3年次に引き続き科目履修とプロジェクト遂行に取り組む。

5年次：上記プロジェクトの成果を学位論文にまとめ、本コース独自基準の学位審査を受け、合格すれば博士学位を取得する。学位記には本コース修了者である旨が記載され、別途コース修了証も交付される。修了者は、先進的なグローバル・クリエイティブリーダーとして、企業、行政、国際機関、ベンチャー起業、等で社会変革を先導していく。

### 4. 選抜と採用期間

コース生の選抜は所定の申請書類に基づいて行う。第1回、第2回の募集を行うが、以下の各項目は、特記のないかぎり、両方の募集に対して共通である。

募集人数：第1回募集 40名程度、第2回募集 20名程度。

応募書類：(1) 所定の履修申請書、(2) 所定の応募票。

提出期間：第1回募集 平成30年3月9日（金）午前10時～3月14日（水）午後3時

第2回募集 平成30年4月2日（月）午前10時～4月6日（金）午後3時

提出先：記入した履修申請書および応募票は電子メールで GCL プログラム事務局に送付

する。(事務局のメールアドレスは本要項末尾を参照)

受付後、受付番号等を知らせるメールを事務局から送付する。締切後 24 時間経っても受付番号を知らせるメールが届かない場合、事務局に問い合わせること。

採用期間：平成 30 年 4 月 1 日から平成 35 年 3 月 31 日（平成 30 年 4 月入学生の場合。平成 29 年 9 月入学生の場合は平成 34 年 8 月 31 日までとなる）。

ただし平成 31 年 4 月 1 日以降の在籍については、資格試験（Qualifying Examination）を行い、引き続き本コースに在籍できると判定された場合に限る。

採否通知：第 1 回募集 平成 30 年 3 月 30 日（予定）。

第 2 回募集 平成 30 年 4 月 16 日（予定）。

いずれも GCL ウェブサイト上で発表する。

なお、判定は、「採用」、「補欠」、「不採用」のいずれかとなる。第 1 回募集で「補欠」の場合、改めて書類を提出することなく、第 2 回募集の候補となる。第 1 回募集で「補欠」または「不採用」となった申請者も、新たな申請書を作成して第 2 回募集に応募することができる。

以上、所定の様式と最新のスケジュールについては、本プログラムのホームページ（URL は本要項末尾に記載）を参照のこと。

## 5. コースの特色と修了要件

### ・ プログラム担当者陣

本プログラムには産官民学から多彩なプログラム担当者が約 90 名参加しており、様々な講義・ワークショップ等を通じて、指導教員以外の指導を仰ぐことができる。これらの詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと。

### ・ 密着多元評価

コース生は指導教員、外部指導者、メンター等による密着多元評価と、資格試験（Qualifying Examination）による評価を受ける。

### ・ 奨励金の支給

コース生には 2 年次より奨励金が支給される（金額は毎年の更改にて定める）。

また、本コースの奨励金を受給する場合、原則として他の奨学金（下に挙げたものなどを含む）とは重複して受給することはできないので留意すること。ただし、本コースの奨励金を辞退することも可能であり、その場合は他の奨学金は受給できる。

日本学術振興会の特別研究員(DC)、日本学生支援機構奨学金、外国人留学生に対する日本政府（文部科学省）奨学金または日本学生支援機構学生奨励費、外国人留学生に対する母国奨学金。東京大学の博士課程研究遂行協力制度。

詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと。

### ・ 修了要件

本コースを修了するためには、所定の授業科目の履修に加えて、以下が必要である。

- ・グローバル デザイン ワークショップへの参加
- ・社会イノベーション プロジェクトの実践
- ・国内外インターンシップへの参加

詳細については、本プログラムのホームページを参照のこと。

#### 6. 本プログラムに関する問い合わせ

GCL プログラム事務局：

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館621号室

電話：03-5841-8746

E-mail (GCL 事務局学務担当)：gcl\_gakumu@gel.i.u-tokyo.ac.jp

GCL プログラム ホームページ：

<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp>